

学位論文題名

中国とロシアの経済・貿易関係の新展開

学位論文内容の要旨

本論文は、1990年代以降の中ロ経済・貿易関係の発展要因・問題点の分析を目的としたものである。そのために、本論文では、①インフォーマルな貿易形態（担ぎ屋貿易など）、②国境貿易、③木材貿易など、中ロの経済・貿易関係のなかで重要な位置を占めているが、これまで十分に研究がなされてこなかった3つの形態、分野の貿易の発展要因や問題点が考察の対象となっている。

本論文では、とくに、次の2つの分析がなされている。第1に、中ロ両国の通関統計、さらには、黒龍江省の貿易統計などについての統計的な分析である。第2に、上記の3つの形態、分野の貿易に関わる両国の制度と政策の分析である。これについては法令等の一次資料の分析に加えて、インターネットで得られる周辺的情報の分析がなされ、中ロ国境地域における聞き取り調査（2007年7～9月）の結果も活用されている。中国語、ロシア語の両方の資料を利用できるという著者の強みが活かされている。

本論文は、第1章「中国とロシアの貿易関係」、第2章「中国とロシアの国境貿易」、第3章「中国とロシアの木材貿易」という3章から成る。

第1章では、中ロ経済・貿易関係の動向を分析し、近年の中ロ貿易の急速な発展要因を検討している。中ロの貿易の動向については、①1992～1993年の貿易の急増期、②1994～1999年の貿易の不振期、③2000年以降の貿易の回復期という3つの時期区分がなされ、それぞれの時期における貿易変動の原因が分析されている。

とくに、中ロ貿易の商品構成について詳しい分析を行っている。とくに、近年については、中国からロシアへの輸出では、繊維、繊維製品、靴に加えて、機械・設備、なかでも、自動車（トラックと乗用車）の増加が著しいことを指摘している。付加価値の低い商品から高い商品への転換がなされているとの特徴づけがなされている。中国のロシアからの輸入では、原油の増加が圧倒的であり、木材も顕著に増加していることを指摘している。燃料・原料の比重が増える方向に変化しているとの特徴づけがなされている。ロシアと中国の貿易関係が、ロシアと欧州・日本などの先進国との貿易関係に類似する方向に変化しているとのまとめがなされている。

第1章で特筆すべきことは、中ロ貿易に関する両国統計の食い違いが詳細に分析されていることである。一般に、A国とB国の2国間の貿易については、A国の貿易統計とB国

の貿易統計では、数値に食い違いがあることが知られているが、中口間の貿易については、この食い違いが相当に大きく、2005年には輸出入総額で見て、中国側統計がロシア側統計を88億ドル（中国側統計による輸出入総額の30%）上回るほどとなっている。中口貿易の分析にあたっては、利用する一次資料の検証として、この両国統計の食い違いをきちんと分析する必要があるが、これまでなされてこなかった。本論文では、両国が同じ貿易商品分類（HS分類）を採用していることから、その97分類の品目ごとに食い違いの大きさが計算され、その原因説明がはかられている。たとえば、原油のロシアからの輸入については、ロシア側統計では鉄道による輸出のみを記録し、第3国経由の船舶による輸出が記録されていないことが原因とされる。木材や鉄鋼のロシアからの輸入については、ロシア側通関において低い価格で申告されることが原因とされる。

一方、中国からロシアへの輸出については、繊維、繊維製品、靴、皮革、毛皮などのインフォーマルな輸出（灰色通関貿易、旅行買い物貿易）が統計の食い違いの主因であるとされる。これに基づき、中口間の「非組織貿易額（担ぎ屋貿易などを含む）」の推計がなされている。このように、中口貿易の食い違いの分析が、両国間のインフォーマルな貿易形態についての検討につながっている。

第2章では、中口間のインフォーマルな貿易形態の多くが関わっている国境貿易に着目している。国境貿易は、2007年に中口貿易の21%を占めており（中国側統計）、重要な貿易形態であるが、これまで十分に研究されていなかった。本章では、この国境貿易の実態を明らかにする試みがなされている。

初めに、国境貿易の制度や政策の変遷を両国の法令などを参照して跡付けている。とくに、国境互市貿易や国境小額貿易など、中国側の制度をきちんと紹介したことが特筆される。ロシア側については、ロシアに入国する際の個人携帯品の重量や金額に関する規定の変遷をまとめ、担ぎ屋貿易への影響が考察されている。

次に、黒龍江省の国境貿易について分析している。黒龍江省は、中口国境貿易額の6割以上を占めている。中口間の国境貿易に関するデータは断片的にしか得られないことから、黒龍江省の国境貿易データについて分析がなされている。また、国境貿易の実際の形態や問題点についての検討がなされている。とくに、中国側の国境地域において、国境貿易の対象となる商品の加工を行う加工園区が設けられていることについての紹介が興味深い。

最後に、国境貿易の二大中心地である満洲里と綏芬河について分析がなされている。対ロシア貿易の窓口である内モンゴル自治区の満洲里は、原油の輸入によって貿易が急増していること、「北方の深圳」と呼ばれる黒龍江省の綏芬河は、木材、肥料などの国境小額貿易と担ぎ屋貿易によって貿易が増加していることが示されている。

本章の結論として、国境貿易の動向には両国政府（地方政府を含む）の政策が大きく影響すること、国境地域の経済活動のなかで国境貿易が大きな役割を果たしていることなどが述べられている。

第3章では、ロシアから中国への木材輸出を分析している。木材輸出は国境貿易におけるロシアから中国への主要輸出品であり、とくに、両国の国境地域の経済発展にとって重要な意味を持っている。

初めに、両国における木材の生産・貿易動向のなかで、ロシアから中国への丸太の輸出が果たしている役割を分析している。中国への輸出増大がロシアの丸太伐採の回復に貢献し、ロシアからの輸入増大が中国の丸太需要の増加を満たしたという関係を統計データにより説得的に示している。

次に、ロシアの木材輸出政策の変遷、とくに、丸太の輸出関税の変遷を跡付けている。そのなかで、2007年からの丸太輸出関税の大幅引き上げの背景を考察し、これが、原料そのものではなく、付加価値の高い製品の輸出を目指すというロシア政府の政策の一環であることを示している。

最後に、この輸出関税引き上げの影響について、両国統計データをもとに分析している。現在進行中の問題であるため、論証に不十分な点も残るが、ロシアの丸太の生産と輸出が減少し、中国のロシアからの丸太の輸入が減少していること、木材製品の輸出拡大には、まだつながっていないこと、中国側への影響も甚大であることなどが示されている。

## 学位論文審査の要旨

主査	教授	田畑	伸一郎
副査	教授	荒井	信雄
副査	准教授	大西	郁夫
副査	教授	堀江	典生

### 学位論文題名

## 中国とロシアの経済・貿易関係の新展開

本論文は平成 20 年 11 月 28 日に提出された。本論文の審査委員会は、平成 20 年 12 月 19 日に発足し、同日に第 1 回、平成 21 年 1 月 20 日に第 2 回の審査委員会が開かれ、論文内容の検討などが行われた。平成 21 年 2 月 2 日に公開の口頭試問が実施され、同日の第 3 回審査委員会において、学位授与の判定がなされた。審査結果報告書の作成のため、第 4 回と第 5 回の審査委員会が平成 21 年 2 月 9 日～2 月 12 日に開かれた。

審査では、まず、本論文の目的や方法に関して次のような基本的位置付けがなされた。本論文は、1990 年代以降の中ロ経済・貿易関係の発展要因・問題点の分析を目的とするものである。そのために、本論文では、①インフォーマルな貿易形態（担ぎ屋貿易など）、②国境貿易、③木材貿易など、中ロの経済・貿易関係のなかで重要な位置を占めているが、これまで十分に研究がなされてこなかった 3 つの形態、分野の貿易の発展要因や問題点が考察の対象となっている。

本論文では、とくに、次の 2 つの分析がなされている。第 1 に、中ロ両国の通関統計、さらには、黒龍江省の貿易統計などについての統計的な分析である。第 2 に、上記の 3 つの形態、分野の貿易に関わる両国の制度と政策の分析である。これについては法令等の一次資料の分析に加えて、インターネットで得られる周辺的情報の分析がなされ、中ロ国境地域における聞き取り調査（2007 年 7～9 月）の結果も活用されている。中国語、ロシア語の両方の資料を利用できるという著者の強みが活かされている。

なお、本論文が 3 本の査読論文に基づいていることも、審査の過程で考慮に入れられた。第 1 章の第 2 節は比較経済体制学会の機関誌の研究ノート、第 2 章の第 1 節と第 2 節はロシア・東欧学会の機関誌の研究論文、第 3 章はスラブ研究センターの『スラヴ研究』の研究ノート（近刊）として発表されたものに基づくものである。

審査では、とくに、次の 4 点において、本論文の学術的価値が評価された。第 1 に、中ロ貿易に対象を絞った詳細な研究は、日本において不足している研究であり、研究対象と

して有意義である。中ロ貿易を本格的に研究するためには、中ロ両国の資料（統計、法令など）を利用することが必要であると考えられるが、著者はまさにそれを行っており、この問題に関する日本における先駆的な研究となっている。

第2に、中ロ貿易を分析するうえでの一次資料である貿易統計について、基本的な検証をきちんと行っている。中ロ貿易については、ロシア側統計と中国側統計の間に大きな食い違いが存在するという問題があるが、その食い違いについて丹念な確認作業と分析を行っており、高く評価される。貿易統計の食い違いの原因に関する考察は、両国間のインフォーマルな貿易の実態分析にも寄与している。

第3に、中ロ間の貿易においては、担ぎ屋貿易、灰色通関貿易、旅行買い物貿易など、インフォーマルな貿易形態が大きな位置を占めているが、それを考察の対象に据え、様々な方法でその実態に迫ろうとしている。とくに、インフォーマルな貿易の場となっている国境地域における貿易に着目し、いわゆる国境貿易について詳しく分析したことは、これまでに類似研究のない、特色のある研究として評価できる。

第4に、中ロ貿易・経済関係、とくに、両国の国境地域における貿易・経済関係のなかで大きな役割を果たしている木材貿易を分析し、両国の木材産業の結び付きを解明している。とくに、ロシアの丸太輸出関税引き上げ政策について、その背景や影響を分析している。日本では、中ロの木材貿易に関する専門家が少ないなかで、中ロ両方の統計を使い、きちんと法令等を参照して、現在の動向を捉えていることが評価できる。

もとより、本論文に問題点がないわけではない。たとえば、中ロ貿易に先行する中ソ貿易の分析が不十分であること、インフォーマルな貿易とロシアのWTO加盟問題の関連性についての議論の説得力が弱いこと、貿易統計の食い違いの原因についての論証が十分でない部分が見られることなどである。しかし、これらはさらに研究を進めるうえでの課題と位置付けられるものであり、本論文の主要な学術的貢献の価値を損なうものではない。

本審査委員会は、以上に記したような本論文のもつ高い学術的価値に鑑み、全員一致で封安全氏は博士（学術）の学位を受けるにふさわしいとの結論に達した。